



平成20年11月7日

各 位

会社名 前田建設工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 前田 靖治  
(コード番号1824 東証第一部)  
問合せ先 経営管理本部財務部長 佐藤 寿郎  
(TEL 03-5276-5114)

### 子会社の業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社である株式会社前田製作所（ジャスダック上場）が、本日、平成21年3月期第2四半期累計期間および通期（連結・単独）の業績予想の修正を行いましたので、お知らせいたします。

これに伴う当社業績の修正は行いません。

添付資料 株式会社前田製作所開示資料 「業績予想の修正に関するお知らせ」

以 上

各 位

上場会社名 株式会社 前田製作所  
 代表者 代表取締役社長 土屋 俊一  
 (コード番号 6281)  
 問合せ先責任者 財務部長 高木 文雄  
 (TEL 026-292-2225)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

### 平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,200	170	160	80	4.98
今回発表予想(B)	15,800	△40	△30	△50	△3.11
増減額(B-A)	△1,400	△210	△190	△130	――
増減率(%)	△8.1	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	18,473	315	295	142	8.85

### 平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	37,500	740	700	390	24.26
今回発表予想(B)	34,000	210	210	120	7.46
増減額(B-A)	△3,500	△530	△490	△270	――
増減率(%)	△9.3	△71.6	△70.0	△69.2	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	38,893	738	714	367	22.87

### 平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,500	130	130	80	4.98
今回発表予想(B)	15,300	△70	△60	△50	△3.11
増減額(B-A)	△1,200	△200	△190	△130	――
増減率(%)	△7.3	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	17,779	241	267	137	8.55

### 平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	36,000	620	600	380	23.64
今回発表予想(B)	32,500	200	200	110	6.84
増減額(B-A)	△3,500	△420	△400	△270	――
増減率(%)	△9.7	△67.7	△66.7	△71.1	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	37,511	615	640	363	22.62

## 修正の理由

(1)第2四半期連結累計期間において、当社グループは、昨年度より取り組んでいる中期経営計画「Maeda New Stage Plan」に基づき、自社商品の拡販、レンタルの拡大、IT・OEM分野の拡大を推進してまいりましたが、世界的な金融市場の混乱の中、設備投資が抑制され、売上高が減少する厳しい状況となりました。

セグメント別では、建設機械販売・サービス事業においては、仕事量の減少と先行きの不透明感から、建設機械の総需要が対前年75%と大幅に減少したことによる建設機械等商品の販売減少に加え、機械稼働の低下からレンタル・建設機械等整備も減少し、売上高は前年同期比14%を超える減少となる見込であります。

産業・鉄構等製造事業においては、自社商品の海外輸出は伸長したものの、企業が設備投資を抑制する中、自社商品のレンタル業向け販売及びIT関連製造設備の受注が減少し、売上高は前年同期比13%の減少となる見込であります。

これらの結果、売上高につきましては、15,800百万円(前回予想比：1,400百万円減少)となる見込みであります。

利益面では、売上高の減少に加え、需要減少下で鋼材等の値上がり分を製品に転嫁できなかったことから、営業利益△40百万円(前回予想比：210百万円減少)、経常利益△30百万円(前回予想比：190百万円減少)、四半期純利益△50百万円(前回予想比：130百万円減少)となる見込みであります。

(2)通期連結業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間の業績修正に加え、第3四半期及び第4四半期に向けては、景気後退による企業の設備投資意欲のさらなる冷え込みが予測されること、また、欧州を中心に順調に伸長してまいりました自社商品の海外輸出が、急激なユーロ安の影響から大幅に減少すると予測されることから、売上高は34,000百万円(前回予想比：3,500百万円減少)となる見込みであります。

利益面では、第3四半期以降レンタル機械の稼働が高まると予測していることに加え、徹底的なコスト削減を推し進めることにより、営業利益210百万円(前回予想比：530百万円減少)、経常利益210百万円(前回予想比：490百万円減少)、当期純利益120百万円(前回予想比：270百万円減少)となる見込みであります。

(3)第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正及び通期個別業績予想数値の修正は、連結業績の修正理由と同様であります。

(注)上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上